定例会見（2022年5月25日）

議事次第

〇定例会見　代表取締役社長　前田　信弘

〇会見内容

1. 2022年度事業計画の概要

2. 首都高カーボンニュートラル戦略の策定

3. 大規模更新事業の進捗状況

[1]日本橋区間地下化事業
[2]東品川桟橋・鮫洲埋立部更新事業
[3]高速大師橋更新事業

4. 首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会の進捗状況

5. 川口ハイウェイオアシスの開業

6. 最近の通行台数状況

© Metropolitan Expressway Company Limited 2022

1. 2022年度事業計画の概要

○ 2022事業年度は、計画的で適切な維持管理や大規模更新・修繕など安全・安心の追求、ネットワーク整備、道路交通情報など快適・便利なサービスの提供等を着実に推進

高速道路事業：3,125億円（前年度：2,972億円）

事業区分	事業の概要	事業費
高速道路の新設、改築	・新大宮上尾道路（与野～上尾南）等の新設、改築	72億円
	・日本橋区間、東品川桟橋・鮫洲埋立部、高速大師橋の大規模更新	362億円
高速道路の維持、修繕	・首都高速道路327.2kmの維持、修繕	1,694億円
	・大規模修繕等	997億円

高速道路事業以外の事業：125億円（前年度：140億円）

事業区分	事業の概要	事業費
パーキングエリアの管理	八潮パーキングエリア等の管理	0.4億円
国、地方公共団体等からの受託事業	新大宮上尾道路の受託事業等	96億円
その他の事業	駐車場事業、首都高速2号線高架下施設事業等	29億円

© Metropolitan Expressway Company Limited 2022

首都高速道路株式会社

2. 首都高カーボンニュートラル戦略の策定

○ 首都高グループは2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言
○ 2022年3月　首都高カーボンニュートラル戦略を策定

1 カーボンニュートラル実現に向けた目指すべきゴールの考え方

冊子 P.5

2050年（目指すべきゴール） ➡ カーボンニュートラル実現

2030年度（目指すべき中間目標） ➡
- 次世代自動車の普及等に加えて、交通円滑化のさらなる推進により、自動車交通からのCO_2排出量を約3割削減
- 事業活動に伴うCO_2排出量約5割削減

2 2050年の首都高の姿

冊子 P.7～

● 首都高ネットワークがさらに強化され、安全性や利便性が益々向上。持続可能な社会の実現に向けて２０５０年も地域社会との共生を図りながら、首都圏の大動脈として変わらず「ひと・まち・くらし」を支えている。

● 先端技術を活かした交通マネジメントを推進。首都高ネットワークを最大限有効活用した脱炭素でスムーズな道路交通が確保されている。
- ボトルネック対策、より高度な情報提供、混雑状況に応じた料金設定などによる交通円滑化をさらに推進
- 非接触給電システムや全PAにEV・PHV用充電器や燃料電池車用水素ステーションを配置するなど、次世代自動車化を推進
- 自動運転とカーシェアリング・ライドシェアが組み合わさることで自動車の公共交通化が進み、首都高に新たなモビリティサービスを導入

3 3つの基本方針

冊子 P.11～

1 ネットワーク機能強化への新たなアプローチ

首都高インフラを最大限有効活用するため、既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントを推進して利便性のさらなる向上と自動車交通からのCO_2排出量削減

2 社会インフラ企業としての自助努力

道路施設への省エネルギー化を徹底、再生可能エネルギーを最大限導入、加えて施設への緑化推進により自らのCO_2排出を抑制

3 グリーン社会との共創（産業界とのコラボ）

地域社会との共生や、様々な分野の企業・団体等産業界とも連携して新技術開発を積極的に進め、ゼロエミッション電源拡充を下支え

リーディングプロジェクト

3つの基本方針に基づく12のプロジェクトを策定

❶ 既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントの推進
❷ ネットワークの充実

❸ 建設時・維持管理の環境負荷低減
❹ 道路照明等事業活動の最大限の省エネルギー化
❺ 業務用車両への次世代自動車導入実施
❻ 企業活動におけるCO_2・廃棄物の削減
❼ 業務効率化のためのDXの戦略的導入

❽ 新技術開発の推進
❾ 環境配慮型PAの整備
❿ CO_2吸収への取り組み
⓫ 次世代自動車普及のための環境整備
⓬ 沿道環境の改善

熟度に応じて2つのステージに分類

2. 首都高カーボンニュートラル戦略の策定

○ ロードマップ：2050年カーボンニュートラルに向けた具体的なスケジュールを策定 冊子 P.26

STAGE 1 ：2030年度までの実施を目指す、または取り組みを継続する具体施策

STAGE 2 ：2050年カーボンニュートラルに向けて実現可能性の検討を進める具体施策

2022年度 → 2030年度 → 2050年

2050年の将来の姿を見据えながら、2030年度を目標に策定

目指すべき中間目標

目指すべきゴール

	プロジェクト	STAGE 1 施策数	STAGE 2 施策数
1	既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントの推進	9	
2	ネットワークの充実	3	
3	建設時・維持管理の環境負荷低減	5	
4	道路照明等事業活動の最大限の省エネルギー化	2	2
5	業務用車両への次世代自動車導入実施	1	1
6	企業活動におけるCO_2・廃棄物の削減	3	1
7	業務効率化のためのDXの戦略的導入	3	
8	新技術開発の推進	2	6
9	環境配慮型PAの整備	6	2
10	CO_2吸収への取り組み	3	2
11	次世代自動車普及のための環境整備	1	3
12	沿道環境の改善	7	1

交通円滑化の推進により約3割減
事業活動からの排出量約5割削減

カーボンニュートラル実現

今回提示したリーディングプロジェクトは、今後中期経営計画の中でその取り組みを具体的に明らかにし、熟度が高いものから順次実施します。
また、リーディングプロジェクトは社会状況や技術革新の動向を踏まえ、適宜、追加・更新します。

3. 大規模更新事業の進捗状況

[1]日本橋区間地下化事業

○3月10日に本体工事の契約手法説明会を実施し、4月20日に常盤橋地区トンネル工事について公示
○2021年4月に呉服橋・江戸橋出入口撤去工事の足場設置等の準備工に着手し、2022年3月から床版撤去工を実施中
○6月に出入口撤去工事の橋桁撤去における降下作業状況を公開予定

写真①　出入口撤去工事状況(江戸橋側)

写真②　床版撤去状況(江戸橋入口部)

写真③　料金所撤去完了(江戸橋入口)

今後の現場公開予定	6月頃　出入口撤去工事の橋桁撤去における降下作業状況を報道機関向けに公開予定

© Metropolitan Expressway Company Limited 2022

3. 大規模更新事業の進捗状況

[2]東品川桟橋・鮫洲埋立部

- ○ 更新上り線は完成済みであり、残る更新下り線は東京モノレールに挟まれた狭隘な空間で工事を実施中
- ○ 東品川桟橋部は、交差する大井水管橋、大井北埠頭橋、目黒川渡河部上の架設を完了し、引き続き橋脚及び橋桁の架設工を実施中
- ○ 鮫洲埋立部は、大型フォークリフトでプレキャストボックスの設置を実施中

断面図

写真① 現場状況

写真② 大井水管橋上の桁架設工

写真③ 鮫洲埋立部 プレキャストボックス設置工

3. 大規模更新事業の進捗状況

[3]高速大師橋更新事業

○現在、大ブロック橋桁の水上運搬が完了し、橋桁移動設備上で新設橋の組み立てを実施中
○組み立て完了後、高欄・舗装・遮音壁・電気配線等の附属施設物工を実施予定
○2023年度、約2週間通行止めにより既設橋及び新設橋を河川上で移動する架け替えを実施予定

現在

2023年度　架け替えに伴う通行止め(約2週間)

4.首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会の進捗状況

○ 今後の大規模更新・修繕及び機能強化の取り組みについて検討する技術検討委員会を2021年12月に設置し、2022年3月の中間とりまとめを経て、現在までに4回の委員会を開催
○ 今後の委員会審議を踏まえ、2022年内にとりまとめを公表予定

2021年12月22日	**第１回委員会** ・首都高速道路の現状 ・新たに得られた知見と課題に基づく今後の対応案
2022年 1月28日	**第２回委員会** 【現場視察】高速1号羽田線 羽田トンネル
2022年 2月18日	**第３回委員会** ・審議を踏まえた今後優先的に検討すべき追加対策(案) ・羽田トンネルの抜本的な対策の実施に向けた検討 ・橋梁の抜本的な対策の実施に向けた検討 ・将来の大規模更新・修繕工事に備えた機能強化の検討
2022年 3月8日	**中間とりまとめ公表** ・新たに得られた知見を踏まえた追加対策(案)の整理 ・今後の議論の方向性
2022年 5月13日	**第４回委員会** 【現場視察】高速湾岸線 荒川湾岸橋
現在	
2022年秋頃 （予定）	**１～２回程度 委員会開催予定** ・追加対策(案)の深度化 等
2022年内 （予定）	**とりまとめ公表** ・追加対策(案)について実施区間選定に当たっての考え方 ・今後も継続検討すべき事項 等

委員会後記者会見の様子

羽田トンネル現場視察の様子

荒川湾岸橋現場視察の様子

© Metropolitan Expressway Company Limited 2022

5. 川口ハイウェイオアシスの開業

［1］ 事業概要及び施設概要

- ○ 川口市のイイナパーク川口（赤山歴史自然公園）と、首都高の川口PAを連結して一体的に整備し、首都高初のハイウェイオアシスとして、2022年4月25日に開業
- ○ 一般道からだけではなく首都高からも公園へ直接アクセスが可能となり、首都高を降りずに公園や地域の散策が可能に
- ○ 従来の川口PAと比べて駐車台数を約2倍へ拡張するとともに、商業施設（レストラン・売店等）を公園側へ移転のうえ、休憩所及びトイレを設置し、公園側・首都高側から共に利用可能となる施設に整備
- ○ 子どもが雨の日でも体を動かし、楽しく遊ぶことができる全天候型の屋内遊具施設（一部屋外エリアを含む）『ASOBooN（アソブーン）』も同時オープン

【施設写真】

拡張・新設した駐車場及び施設建物

商業施設
（レストラン・カフェ・売店）

屋内遊具施設
『ASOBooN（アソブーン）』

© Metropolitan Expressway Company Limited 2022

5. 川口ハイウェイオアシスの開業

[2] 開業イベント、ゴールデンウィークの状況

- ○ 開業前日に川口市主催の記念式典が開催
- ○ 開業当日に警視庁、埼玉県警、川口市と合同で交通安全キャンペーン、GWの5月7日に川口市と共催で家族で楽しめるスタンプラリー、働く車展示イベントを実施
- ○ GW期間のご利用状況は、昨年に比べて、利用台数・利用人数ともに大幅に増加

開業前日の記念式典(4/24)

開業当日の交通安全キャンペーン(4/25)

GWのスタンプラリー＆働く車展示イベント(5/7)

【GW期間の利用状況※1】

	首都高からの利用台数※2	レストラン・売店の利用人数※3	屋内遊具棟の利用人数※3
日平均	2,151台	2,402人	689人
対2021年比	174%	391%	―
対2019年比	105%	166%	―

GW中の駐車場の様子

※1 4月25日から5月8日までの利用状況(2021年は4月26日から5月9日まで、2019年は4月22日から5月5日までの利用状況)
※2 利用台数は首都高からの流入車両数(トラカンデータによる参考値。公園側からの入場台数は含まない)
※3 利用人数は各棟における販売件数データ

© Metropolitan Expressway Company Limited 2022

6. 最近の通行台数状況

- ○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うまん延防止等重点措置（2022年1月21日～3月21日）や降雪の影響があったものの、通行台数に回復の兆しがみられる
- ○ 2022年3月1日から一部料金所でETC専用運用を開始、また同年4月1日に料金体系見直しを実施
- ○ 2022年4月のETC利用率は97.7%となり、同年2月の96.8%と比して0.9%増加（前年4月比で+1.1%）

（単位：万台/日）

	2021年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年1月	2月	3月	4月
通行台数	88.7	96.9	90.4	83.2	92.7	98.2	101.2	102.1	87.6	89.7	100.8	97.2
対前年比	+32.4%	+9.2%	△1.4%	△9.3%	△4.4%	+0.4%	+3.0%	+5.2%	+6.1%	△2.6%	+1.6%	+0.8%

※2022年4月は速報値

© Metropolitan Expressway Company Limited 2022